

自主防災機能を強化

災害が発生したとき、それを防いだり被害を最小限に食い止めるためには、自分の家が無事なだけではいけません。住んでいる地域全体が守られて、はじめて自分や家族が安全になれるのです。安全・安心のまちをつくるために、日ごろからコミュニティを大切に、連帯感を深めていく努力が必要です。

地域全体を守ることが、自分と家族を守ることにつながる!

自分の身は自分で守る

もし、災害に直面しても、救援隊がすぐに来るとは、限りません!

大きな災害が発生したとき、地域は次のような状況に見舞われることがあります。

1. 道路が不通になり、防災機関の活動が困難になります。
 2. 電話・水道・電気が止まり、防災機関への通報や消火活動に支障をきたします。
 3. 同時に多数の場所で被害が出て、防災機関の活動が分散します。
- これらのことから各自・各家庭で災害に備えることが重要になってきます。



みんなでまちを守る

地域の防災意識が、災害時に人命を助けることにつながる。

東日本大震災では、近所の「声かけ」によって多くの方が救われたと聞きます。このことから地域の皆さんが協力して初期消火・被災者の救出・救助、避難誘導、避難所の運営を行うことにより地域の被害を少なくすることができます。自主防災機能を強化して、日ごろから災害に備えた防災活動を展開していきましょう。



防災活動の重要性を認識しよう

災害時の心がけ

避難時の心得

特に洪水時に避難する際は、河川の管理道路の利用は避けましょう。堤防が決壊する場合がありますが大変危険です。また、土砂災害危険箇所を避けましょう。

マップで避難所の位置や土砂災害危険箇所等を前もって確認しておきましょう。

ラジオ・テレビで最新の気象情報に注意しましょう。

役場、消防からの避難の呼びかけに注意しましょう。

避難する前に電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、必要なものをまとめておきましょう。

避難の時は、役場・消防署・警察署などの指示に従い早めの避難をしましょう。

車での避難は緊急車両の妨げとなります。また、浸水箇所では水没する可能性もあります。徒歩での避難を行いましょう。

水が入り動きにくくなる長靴や裸足は禁物です。動きやすい運動靴で避難しましょう。

避難する時は、動きやすい格好で、二人以上での行動を心がけましょう。

万が一避難が遅れ、危険が迫った場合は近くの丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。